の人生の興味もなく又生活的刺戟もないものになつて了ふかといふことを憂ふるものであります。即ち天才者が生れるといふことは、從來の歴史に見ましても、亦現在の狀況に見ましても、要するに社會的必需の現象である。吾々の社會的生活に一點の意義を與へるものは、云ふまでもなく天才者の力であります。自から天才でなくとも、自分と同時代又は過古の時代に於てその國家に天才を有したといふことは、平凡なる人々の生活にも如何に光榮を與へ、又如何に其の生活を豊富にする所の源となるかといふことは、多く言を費す要はありません。天才者の發生に就て今後の社會が更に大いなる注意を拂ひ、同時に天才者の發現に就いて及ぶ限りの保護を圖り、所謂天才教育といふ方面に於ても一顧の努力を惜まずに、教育者、醫學者、社會政策家等皆擧つて此の方面の事に省察發明致しまするこことは、決して無意義なことではないと私共は確信するのであります。

第八章　神經質兒童

神經質　兒童期に於ては、屢々神經質であることが、外觀上天才的智能を有つて居るものであるかのやうに誤つて認めらるゝ例があるのであります。元來神經質と申しますのは、既に皆樣も御承知でありませうが、生來此の中樞神經系統の特質としまして外界の刺戟に對して過敏性に反應するといふ傾向を有つてゐる者を云ひますので、些細の事でも何か身心を刺戟するやうなことがありますと、容易く其の全神經系が之が爲めに昂奮致しまして、從つて精神作用も一時甚だ昂進をするやうになる素質を有つてゐるものであります。それ故自然と神經質の人は平生から些細なことにも氣がつき、頭腦を使ふので、段々頭腦的の仕事に興味を持つやうになり易いので、それはつまり神經系の作らきが敏活に行はれるからであります。それ故神經質兒童は、少さい時から種々學科のことや技藝のことなどに興味を有ちまして、其の方に熱中しまして、體

力を使ふやうなことを厭ふ傾向を示すのであります。併しながら元來神經質と稱するものは、大腦全體の機能の素質が一種の變質を來したものでありまして、其の上に一時的にもせよ心身の過勞が加はりまする際には、忽ちに可なり重い慢性の神經衰弱症と名づけまする病氣を起し易い傾きを有つて居ります。即ち其の神經系統は非常に興奮せられ易い、即ち刺戟性の特徴を有つて居りますけれども、その代り割合に早く疲勞し易いので、普通の人の如くに同一の事業に、長く繼續して然も努勉して從事することが出來ませず、忽ちの間に堪へ難い疲勞を覺え、仕事に倦きが來るのです。其の疲勞をも尙構はずそれを無理にこらへて辛抱して仕事を續けて行きます時は、疲勞の域を通り越して、忽ち過勞の疾病的狀態に陷ります。之が即ち神經衰弱症などであります。

斯く過勞に堪へません爲に、神經質の者は、自然他の健全な神經系統を有つて居る人に比べましては、種々の點に於て不利の位置に立つて居るのであります。何か自分の興味を有つて居る仕事に熱中しました際にも、其の仕事に取りかゝつた最初の頃には、普通人の到底及ばざる程の速い速度を以て仕事をすることが出來ますけれども、忽ち數十分の間に急激の疲勞を感じまして、其の能率は急激に中途から減退し、然も倦怠を覺え始めますと、間もなく仕事の繼續が到底苦痛で不可能になつて了ふが如き狀態に陷ります。之に反しまして普通の健康人では、仕事の始めの取り懸りの頃には未だ仕事の能率は大して擧りません。しかし多少の時間それを繼續して居ます間に、一方には作業の練習の効を積みまして、漸次仕事の量が捗どつて來るやうになりますし、又一方には仕事に對して俗に所謂油が乘つて參りまして、自然とその作業に興味を感じ、又其の速度を進めて來るやうになります。仕事に着手しまして暫らくの間は疲勞による能率の減退は左程迅速でありませんから、時間を重ねるに從つて仕事の能率が漸次高まつて來るやうな傾向を示します。しかし軈て其の頂點に達しまして、漸次疲勞を感ずるやうになりまして、段々仕事量も減ずる方へ向つて參りますが、併し其

の疲勞の增進して行く割合も健康人では徐々でありますから、神經質の人のやうに急激に疲勞を感じてへたばつて了ふが如きことはないのであります。だから一定の時間の間持續して作業をさせました場合に於いては、普通の人の方が仕事の總量が多く、且其の仕事が確りした正確度を持續するのであります。例へば遠い山道などを遠足しまする際でも、神經質の人は始めの中は非常に元氣がよく、早足で、多くの人と面白い談話は交はしつゝ興味に驅られながら歩を進めて行きますけれども、或所まで達しますると、急激に疲れを覺え始めまして、ヘタ張り込んでもう一歩も歩けないなどと弱音を吐きます。普通の人でありますれば、最初から其の歩みは普通で、平均的に急がす休まず參ります。然もその疲勞の現はれ方も徐々でありますから、比較的長途に耐えるのであります。途中餘り多く休息せずに長道に耐えるのであります。

神經質者の臨床的症候　斯くの如くに神經質の人は精神的作業並に筋肉的勞作のどちらに於きましても、疲勞性の亢進と刺戟性の强いこととを特徵と致すのであります。

す。醫學者の方では此の狀態を刺戟性衰弱と名づけまして能く鉋屑の燃え立つ有樣に譬へて申します。鉋屑には燐寸一本でもすぐ火が點きまして、而も忽ち非常の勢ひで火の手は擧がりますけれども、直ぐに其の力は失はれて、見る間に火の勢は消え去つて了ひます。之に反して薪などに點火しますする時には、火の點き方は少し困難ですがしかし一旦點きました火は却々消えず、然も其の火力は火の手の擧らない割合に、可なり强いものであります。丁度神經質の人と普通の健康人との作業の有樣は、之に譬へて然るべきでありまして、鉋屑で飯が焚けないと同樣に、神經質の人は長續きをする大事業には到底耐へないのであります。之は神經質の人はそれだけの耐忍性を有つて居らない爲めであります。然も神經質の人は何れかと云へば感情が興奮しやすいために、些細な事で失望したり落膽したりしますと、直ぐに自暴自棄となつたり、或は左もないことから他人を恨んだり厭世悲觀を起したりしますし、又普通の人に比較しては意思の力も亦薄弱の事が多いやうです。一面には全身の交感神經系統又の名植物

性神經系統の機能の亢進し易い特徴の爲めに、新陳代謝の機能が旺盛でありまして、從つて幾ら食物を食べましても肥滿することが出來ません。酒や煙草に對しましても甚しく過敏に感じ易く、一本の煙草或は一杯の酒の爲めに堪へ難い位の苦痛を感じ、病人の如くに醉つて了ふやうなこともあります。それ程神經系は一體に興奮し易いのであります。又平素の氣分は不愉快な不機嫌なことが多く、一寸した事で腹を立て易く、又感動し易い。感情情緒は斷えず動搖し勝ちでありまして、性格は我儘で放埒で執念深く、殊に些細のことを氣にかけて心配をしたり苦勞にしたり、將來のことを取越苦勞したり、過去の事を何時までも忘れずに後悔して居つたり、或は長い間人を恨んだり妬んだりするやうな感情の執拗性があります。尙自分の身體の中に種々の病氣がありはせぬかと絶えず根據のない心配を致して氣に惱んだり、常に强迫觀念などを有つて居て、愚にもつかぬやうなことを始終口にしてその考へに捉はれて居たり、或は無稽な恐怖症などを持つて居まして、詰らないことに絶えず恐怖を感じてゐます。

例へば大勢の人中へ出るのが氣が咎めてどうしても嫌だとか、高い所へ上ることは怖くてどうしても出來ないとかいふやうな病的恐怖症を示すのみならず、平生に於ても些細の心配事から俄に神經が亢奮しまして、忽ち不眠症を起したり、或は食慾不振を起したり、又或は頭痛を感へたり、頭壓を感じたりなど致します。殊に炎天に帽子なしで出たり、或は火の上に頭を翳して居たりしますと、直ぐ血が頭部に衝逆して、耐へ難い頭痛を感へて來ることがあります。又耳鳴や眩暈等を絶えず訴へてゐる人もあります。芝居見物或は遠足などをして、多少無理を努めて同一の事を長く續けますと、その精神過勞の爲めに翌日は終日非常なる疲勞を感じますので、到底翌日一日休みませんでは平常に如くに仕事に就くことは不可能な位であります。

それ等の人が疲勞を感じてゐるにも拘はらず、無理に之に耐へ耐へて勉强を續けまする時は、今度は持續性の神經衰弱症を起しまして、遂には注意が散亂したり、絶えず全身に種々なる不快の自覺症狀が起りましたり、心臟の鼓動が高まるとか、或は胃

腸の消化障碍を起すとか、或は耐へ難い種々なる腦の方面の自覺症狀を惹起しまして最早暫らくもその事業に從事することが出來ないやうな狀態になつて了ひます。

神經質者の智能と其の保護法　以上の如く神經質の人は、腦の變質的機能障碍の症候を生來性に有つて居るのでありますから、到底心身の過勞には耐へ得られませんけれども、併しながら適當の刺戟に伴ひ休息を適宜に挿んで、過勞に陷らないやうに要心しつゝ勞作に從事する際には、普通の人に比較して腦の血行狀態が非常に良好で作業も大層迅速であります。即ち神經質の人は些細の刺戟によつて直ちに精神作用が昂まるのでありますから、第三者から一寸一見しますと氣が利いて理解が早く、非常に智力の優れた人であるかの如き觀を呈する人が多いのであります。實際普通以上の智能能力を有してゐる人が多く、學業の成績も勝れて一般に良く、技能にも概して何事にも達者で、所謂器用な才子肌の性格を示すものが多いのであります。概して云ひますれば、學者とか、藝術家、詩人、文人、思想家といふが如き、頭腦の働きに優れた人々の中には、生來神經質の人が甚だ多いのであります。たゞ茲に最も惜しむべきことは、是等の人々は自己の神經質であることを自覺しませんで、自分の智能や技能に長け神經や精神作用の過敏な點を頼みまして、往々種々無理なことをして過勞に陷り易いので、其の爲めに早くから神經衰弱症に冒されまして、却つて其の天禀の手腕を十分發揮することも出來なくなり、常に腦神經の自覺症狀の爲めに惱まされ、一生を不快と不平との間に過さねばならぬといふ運命に陷つた實例も屢々聞く所なのであります神經質の兒童に對しましては、其の天禀を十分に發揮させまする爲めには、小さい時から成るべく心身の過勞を避け、適當量の精神作業に慣れしむることにし、一方には其の身體を强壯にすることに努めて漸次その過敏性を去り、神經質の症狀を除くやうにし、その體質的の缺點を治療して行くやうに、父兄並に教師の方から勉めて行かなければならぬと思ひます。殊に神經質の人は前にも述べました如く、仕事の取り懸り始めには非常に能率もよく迅速に仕事が捗取るのでありますが、忽ちの間に極度の疲勞を

感ずるやうになるのが特質であります故に、成るべくその疲勞を少なくします爲めに、作業中に頻回休息時間を挾み、同一の作業に長時間に亘つて從事せしむることを避けるやうにしなければなりません。遊ぶ時には又完全に萬事を放擲して頭腦を休めるやうにし、休憩中に腦を使ふやうなことは絶對に避けまして、出來得る限り勤勞と休息との時間の關係に注意しまして、又その上に十分の睡眠時間を取らしめ、又適當なる食事を取らしめ、以て其の神經系統の完全な休養を圖つてやるやうにしなければなりません。

所が兎角世間の父兄或は教師達は、兒童の學業の成績が少し位良く、又大層學問に興味を有し、或は異常の能力を示すと思ひますと、その兒童に對してやたらと學問を詰め込まうと致し、家庭に於て科外教師を取つたり或は父兄自身が手を下して色々の學科以外の技藝やら手工等を教へやうと致します。例へば音樂を習はせるとか、或は家庭教師を取つて別に高等の學科を學ばしめるとか、或は兒童の欲するまゝに種々の雜誌や書物を買ひ與へまして讀書を奬勵しますとか、色々の事をして、知らず識らず其の兒童のかよわい精神を過度に働かしめやうとするのであります。子供も亦自分が過勞に陷ることをも顧みず、寧ろ煽てに乘り奬勵せらるゝことに圖に乘つて、種々の事柄を學んで人に褒められやうと努めます。

それは未だ少年期の場合に於ては左程の神經に對する影響を及ぼしますまいけれども、漸次年を取るにつれ、即ち中學三四年頃から先きになりましては、思春期の身體の急激な發育につれて神經系統は一時著しき變調を受くる時期が來ますので、斯ういふ春期發動期の頃になりますと、從前の過勞やら或は其の當時の心身の過勞などが、幼少の頃に比較しますと、遙かに强度に、其の身體の發育や或は神經機能の上に影響を及ぼして參りまして、遽かに十七八歳頃から重い神經衰弱症を現はしたり、或は慢性の思春期に起る一種の精神病(早發性癡呆)を發したりしまして、取返しの付かぬことになりまして、今までの父兄の樂しみも當人の希望も、共に水泡に歸して了ふが如き實例

は世に乏しくありません。昔から「十で神童、十五で才子、二十過ぐれば並の人」といふ諺がありますのも、恐らくは適當な天才の擁護法を誤つたものであるか、或は神經質の兒童に對し相當の醫療的處置を怠つた結果として、斯ういふ如き人間が生じたのではなからうかと思はれます。少くとも神經質に對する專門的知識或は天才者に對する專門的知識を所有して居りますか、又は專門家に相談しましてそれ等の素質に應ずる適當なる教育法を講じてやりましたならば、十で神童の者ならば、飽くまでも壯年までも神童の智能を押通し、二十過ぐれば寧ろ拔群の能力を發揮すべき人にまで教養し上げることが出來る筈であります。

神經質のものには其の獨得な精神作用の敏活な特徴があるのでありますから、其の特徴を失はしめずして神經質の不快な症候だけを早くから治療することに努めましたならば、普通の人に比しては遙かに優秀なる智能を發揮することが出來るものでありまして、實際に於て今日學者や詩人藝術家等の間に神經質の人が相當に多いといふ

ことも、要するに神經質の長所を傷はずして、偶然か或は相當の注意によつてか、兎に角その智能技能上の天禀を發揮することを得た人々でありまして、是等の多くの神經質の優秀者が世に出まするまでには、其の數の十倍乃至數十倍の神經質の犠牲者落伍者を作り出したことであらうと思はれます。今日小學校時代に於て可なり優秀な學業成績を示しました兒童が、中學に入り或はそれ以上の高等の學校に入り、或は社會の實生活に送り出されましてからは、一向に優れない平凡人となつて了ふやうな例が、可なり多くあります事實から考へますと、恐らく小學校時代に於て優秀であつた其の智能は、取りも直さず神經質の結果であつたのだらうと思はれます。所がそれ等に對する父兄の注意が不十分であつた爲めに、遂に斯くの如く十分の花を咲かせ實を結ばせることが出來なかつたのではありますまいか。是等を以て見ましても、兒童の天賦の擁護に對し神經病學或は精神病學の大體の知識を有つこと、或はそれ等の專門家に就いて能く教養上の相談を爲さることは、決して忽せにすべからざる事であらうと私共は

考へるのであります。

神經質と天才との鑑別　神經質の兒童は今述べました如き特徴を有つて居りまして、其の少年期に於ては今まで私が述べた天才者の特徴に甚だ能く類似して居るのでありまして、從つて神經質者が即ち天才者であるが如く思はるる例が屢々あるのでありますが、其の兩者の間の區別は、要するに僅か一髮の差に過ぎません。即ち天才者は其の性格的に智能なり技能なりの方面に、優秀な偏向した長所を示すのでありまして神經系統は詰り偏したなりに片寄つた變質的發育を遂げて居るものであります。然るに神經質の人は、それに比して其の神經系の發育の狀態が如何にもあやふやでありまして、未だ固定しないかの如き觀を呈して居り、些細の外界の影響によつて直ちに神經衰弱症に罹り易いのですが、併し眞の天才的特徴を示しますものに於ては、斯樣な刺戟性纖弱を示しません。多少の無理にもよく耐へ、又自分の興味を有つて居る仕事に對しましては殆ど飽くことを知らず、疲れることを知らずに、それに從事することが出

來るのであります。即ち疲勞性の亢進が存してゐるかゐないかといふことが、天才と神經質の重なる區別點の一つなのであります。疲勞性の亢進がある神經質者に對しましては、今述べたやうに精神作業後には十分の休息を與へるといふ方針を執りませぬと、直ちに神經衰弱症に罹り易い虞がありますから注意を要しますが、さもなくして疲勞性の高まつて居らない健全なる頭腦の者に於きましては、多少過度の勞作をしたからと云つて病氣に罹るといふやうな憂は決してないのであります。從つて神經質の人々は、天才的能力を發揮することも可なり多いのではありますが、併しながら其の能力は中途にして急に減退して了ふことがある。數多い文藝家等の間には、文壇に乘り出した當時に於いては、甚しき興味と甚しき精力を以て勇往邁進し、目覺ましい活躍をしますけれども、間もなく自分の才能の力も盡き、或は過勞の爲めに病氣に罹りましたりして、幾何もなくしてその能力衰頽し、文壇から疎んぜられて了ふに至るやうな人が往々あります。是は文壇のみならず他の藝術界に於ても屢々人の口の端に

上ることでもありますが、是等の人の中には恐らく眞の天才と呼ぶべきものでなく謂はば神經質の素質を多量に備へて居た人々もあつたのであらうと存じます。

それ等の人々が自分の才能を發揮する上に於て、精神衛生の法則を知らなかつたが爲めに、思はざる過勞に陷り、遂に自分の天才的生命をも縮めるやうな結果になつたのでありませう。是等を以て觀ましても眞の天才者と、神經質に因る一時的の能率增進の狀態とを差別することが出來るのでありまして、その兩者に對する種々の衛生的注意の仕方は自から異るものがあるのであります。

神經質者の性格　神經質の人は一般に性格上に於ては著しき異常を示すことがないのでありますが、非常な取越苦勞をするとか、心配性であるとか、一言にして盡せば神經過敏であつて、常にコセ〳〵して、世間の噂や或は自分の地位や名譽や利害などに著しく執着を示しまして、甚だ落ち付かない態度をする人があるのですが、之は異常性格者といふよりは、寧ろ其の精神的の刺戟性纖弱の特徵が反映して、外界の

行動に現はれるに過ぎないものと考へます。それに反して眞の天才的能力を有するものは、前に述べた如く固定的の變質者でありまして、外界の影響などはあまり多く其の人の精神界に影響を及ぼさないやうに見受けられます。

從つて毀譽褒貶をも事とせず、垢衣破帽まるきり着物がなくとも多く意に介せず、自分の思ふ所に向つて唯一轍に進んで行く、謂はば頑固な固陋な世間構はずの自己中心的の態度を示すものが多いやうです。然も少年時に於ては今の我儘な一徹な性格よりして、種々の不良性の性格を有するやうに思はれ、或は喧嘩好きであるとか、或は些細の事で怒り易く亂暴を働くとか、或は無鐵砲な企てをするとか、人の迷惑を顧みず自分の勝手のことに熱中して居るとか、小學校の先生などから云ひますと不良少年と認められるゝやうな性格を示すことが多いのであります。從つて天才の少年時に於ては大抵不良性を帶びて居るものだとさへ云はれてゐるのみならず、吾々の小學校時代のことを回顧して見ましても、同時代に於て非常な扱ひにくい性質の惡い少年であつて、

先生からも父兄からも常に叱言ばかり言はれて居つて、何れかと云へば惡少年の方の模範として擧げられて居たやうな少年者が、年長じてから世に憎まれる惡漢とはならずに、却つて社會に有要の材能ある人物となるものがある。

それに反し、小學時代に於て温順勤勉一校の模範生として賞揚せられた神經質の兒童が、却つて何等取り柄のないものになつてしまつたのに比較して、亂暴者が却つて異彩を放つた成功振を示す例が少なくないのであります。是等少年期に於て示します る智力とか性格とかいふ如きものは、直ちに其の人間の全體の能力をそのまゝ指示するものではありません。單に發育の一過程を示すに過ぎないものであります。それ等の智能なり性格なりは、其の後長期に亘りまする學校並に家庭の教育の方針によりまして、種々舵を取られて其の方向を轉じて行くものであります。一度其の舵の操り方を誤まりますれば、優秀なる素質者も亦進むべき道を取り外すことでありませうし、其の舵の操り方さへ良ければ、惡癖を示した所の不良少年の如きものでも、感化教育によつて、一かどの人物に變ずることもあるのです。況してや一方に優秀な技能なり智能なりの素質を有するものにありましては、性格上の缺陷に打ち克つてそれ等の優秀なる方面の能力により、世間有要の天才者にまで立身し得ることは、決して其の實例に乏しくないのであります。

又今後に於きまして、其の教養の方針さへ立つて目的に適つた方法を講じさへしますれば、幾らでも人爲的に良好な例を作り出すことが出來ることと私共は信じて居ります。唯惜しむべきことは、幼少の頃に於て父兄なり教師なりが、天才的傾向を示す不良性の少年と神經質を有する所の優良な學績の少年と、其の他種々なる生來性の異常性格を示す所の兒童との間に、明確なる鑑別を爲す能力を有しませんので、屢々其の教養の方針に誤りを來し易いといふことであります。前述しました如く其の人々の素質は、其の面貌の一々異なるが如く一樣でありません。さりながら其の中には自づから共通の型があるものであります。それ等の型に就いて一々教育上の方針を案出しま

して、從來の種々なる研究と明敏なる洞察とを斟酌して、適切なる方法を講じて行くやうにしますれば、教育の効は將來に於て蓋し圖るべからざる重大の結果を生み出し得ることと思ふのであります。

教育萬能か天賦萬能か　一面の教育者は教育萬能を叫びまして、如何なる素質の者と雖も教育により理想的の人物になし得べしと論じてゐます。一方醫學者達は天賦萬能を信じまして、天賦に適はざるものは、之に對し如何に外部より教育を加へましても、其の天賦以外のものを作り上げることは出來ぬと極說してゐます。

兩說ともに相當の經驗的根據を有してをるのでありませうが、共に極端に馳せてゐます。中庸の道はこの兩者を併せて以て其の天賦に應じ夫々特殊の教育法を施すといふことにしましたならば、從前の教育者が理想とせる以上、或は醫學者が考へて居ることと以上の結果が、そこに現はれて來るであらうとは、唯想像しただけでも首肯し得らるる所でありませう。唯今日に於て憂ふる所は、其の的確なる素質の鑑別法及びそれに

應ずる教育の方針の立案といふ點のみでありますが、之は將來に於て漸次專門學者の幾多の經驗と實驗並に研究とによつて進み行くことを信じて疑はないのであります。

第九章　智能の遺傳

智能は遺傳するか

智能は其の儘の形で世々遺傳するものではありません。即ち父なり母なりが非常に優秀な智能を有して居るが故に、其の子供も亦生來優秀なる智能を示すといふことは、必ずしも常に當然見出さるゝ事實とは申されません。併しながら今日の進化の道筋に於きまして、吾人の現在有する身體の形態がもつと單純なる形態からして、漸次その自己の生活法に適應し又自己の棲息する環境に順應して、徐々と進化を遂げて來て、遂に今日の形態になつたのだといふ、生物學上の假說を事實であると認容しますれば、智能の上に於きましても亦吾人の原始的先祖であつたものに比較しては、今日の人間の智能は一般的に著しい進化を遂げて來て斯くなつたものであらねばならぬと存じます。之は矢張り史的事實に見ましても證明せらるゝ所であります。

斯くの如く智能を受け入れる大腦の基礎的素質に於て、今日迄進化を遂げて來たものと見なければならないと致しますれば、智能其のものが直ちにそのまゝ遺傳せられるとは云へませんけれども、智能を受け入れてゐる大腦の基礎的素質が進化するものだといふことは、必ずしも否定すべからざる事實であらうと思ひます。現に或一家に就いて數代の間の家系史を眺めましても、後代に至る程、其の家系の人の智能の標準的位置は高まつて行くのが常で、即ち時代の子の常識は其の時代思潮の進むと共に自づから高まつて行くものであります。それには勿論教養の結果もありませうが、それと同時に遺傳の結果もあるのではないかと考へます。親が子を騙す例は少ないが、子が親を騙す例は非常に多い。何時の時代に於ても子供は親爺を莫迦にする傾向があるものであります。即ち時代的進化と共に子供の智能は親爺の智能よりも、何時も多少進化して居るのが例であります。從つて父母の代に於て優秀なる智能を示したものならば、父の有する優秀な頭腦は其の祖父や曾祖父の有してゐた頭腦よりも、一段の進化

を示したものでありまして、然もそれが優秀なる素質を備へて居るものでありますから、その子供の時代に於きましても亦其の優秀なる大腦の基礎的素質を遺傳するといふことはあり得ることであります。

今日世界各國に於きまして、一家の家系から智能の優れたものが澤山輩出する幸福なる家筋が、少からず例に擧げられて居りますが、その中にはよく調べますと、優秀者と共に低能者や種々なる變質者等をも交へて、多數に輩出して居る家系もあるやうであります。是等は變質的家系と申しませうか、或は優秀の家系と申して然るべきかは、遽かに論結し難いことではありますけれども、兎に角其の家系を通じて、智能的方面或は天才的特徴の方面に於て、僅かながらでも遺傳的の傾向を示してゐることだけは、多少條件附とは云へ認めざるを得ない所でありまして、然も遺傳の傾向は、同じやうな素質を有するもの同志の男女の結婚によりまして、一層强められて行くことは生物學上の事實でありますから、茲に於て吾々は古來我國に行はれて居つた職業の世

襲制度といふものに就きまして、一考して見る價値があらうと考へるのであります。

世襲制度　從來我國で因襲的に父祖の業の世襲制度が行はれましたのは、政治家の特權階級といふやうなものもありましたが、多くは特殊技能を主なる家業とした家系でありまして、例へば畫家であるとか、刀劍鍛治であるとか、或は彫刻家、或は書家、或は音曲家等、各々其の技能を主とし、或は時によつて智能を主とした職業のものに多くありました。學者の家筋といふものも世襲に傳つて居るものもありますが、それは多くは學政といふやうな方面の一種の權力が世襲されましたので、學問そのものは、その子孫に必ずしも傳はるといふ譯でもなかつたやうです。何れにしましてもかういふ世襲制度の重んぜられてゐる社會に於きましては、其の家筋の重なる者の配偶者を選びまする際に於きましても、やはり同じ家系に屬する者の中で成るべく其の技能に於て優れた家の娘などから求めて來るといふやうな方針をとりました。

而して其の家系内に生れました子供は、少時から既に其の家筋に所屬してゐる職業

に從事しなければならぬ義務を有して居るのでありますから、其の兩親なり、指導者なりは、幼夙の頃から一定の方針を以て、其の兒童をその技能の方面に敎養して行くのであります。即ち一面に於て其の家筋に伴ふ所の特殊技能、或は智能が、同一の素質を有すべき家系者の間同志の結婚によつて、一層强められて行くわけであり、殊に其の子供に於ては、父なり母なりの時代よりも、一層その特異素質が優良に現はれるべき可能性を有して居る筈でありますと共に、一面に於ては、曩に述べましたやうな早敎育なり、或は天賦に從ふ特殊的敎育法なりによりまして、比較的年弱の頃から一定の方針によつて敎育をされますが故に、從つて其の敎育の効果は本然の素質と相俟つて、著しい成果を收めるやうになつたのであらうと想像せられます。斯くの如くにして、家系全體が同じ素質の方向のみに生物學的進化を人爲的に遂げて行かうといふことは、以前「スパルタ」敎育のことに就いて批評をしました如く、餘りに偏向的となり過ぎまして、却つて其の家系の進路を妨ぐるに至る虞がないでもありますまい。從つて、此の方法はたゞその形式だけに泥んでそのまゝ永續せしむべき理想的の方法だとは云へないでありませう。

併し兎に角天賦を論じ遺傳を論ずる際に於きましては、此の事實は尠からざる參考資料となるべきものでありまして、世襲制度の可否、又は世襲制度の成功不成功等の蹟を深く顧みまして、之を研究し評論を下しまする事は、將來の優生學上の應用を論じまする上に於て、決して無駄な努力ではないことと思ひます。と云つて必ずしも凡ての子供は父の業を襲がしむることが、必ず成功の基本なりといふ風に斗り考へるのも早計であると申さねばなりません。

今日此の混沌たる時代に於きましては、家系の遺傳といふことも何となく輕んぜられて來ましたのみならず、その家系も不純になつて來て、立派な家系でも末の兒孫になりますと、種々なる病的素質を有するやうになることもありますから、いろ〳〵考慮しなければならないことが多くなり、之を斷定的に論ずる譯には行きませんが、唯特別

の場合に於きまして、世襲を便宜とする種々の職業や、或は特に父の優れたる技能と同一の方面に於て少時から優秀なる能力を示した子供がありました場合に於て、それ等に對しましては、從前に世襲制度の行はれた時代に執られた教育法を參考として、幼少の時から一定の方針により教育を施すことを以て、有利な方法であると信ずるのであります。

吾人の父兄教員に對する希望

之を要するに天才的傾向を示す所の兒童や、或は神經質の症候を有する兒童を教養しまする際に於きまして、唯漫然と其の者の伸び行く儘に伸ばさしめるやうなことなく、それに對して誘導的に、生來天賦の素質をば一層能く發揮せしむるやうに、然も其の際には一定の方針に從ひ、成るべく無駄の努力のないやうに教養の方策を講じまする所以は、新たなる天才者を生み出させる方法とは云へませんけれども、既に生れ出た天才者をみすみす見殺しにすることのないやうにする上に於て、多大の効蹟を擧げる有力な方法ではなからうかと信ずるのであります。

⑥ 從つて吾々が天才兒の教育や、天才者の養成擁護などを唱へまする所以は、決してそれ相應の素質のないものまでも天才者に仕上げて行くといふ意味ではありません。既に天才的の素質あるものを早くから鑑別し發見して、其の素質をば無駄に失はしめることのないやうに、擁護して行くといふことを意味するのであります。天才的素質を有してゐるものは、無論多數に世に現はれるものではありません。云ふまでもなく少數者には相違ないのでありますが、其の少數者の中から、尙更父兄教員の無智と不注意とによつて、種々の天才的萠芽を有するものが、往々沒却され無視されて居ることがあるのであります。即ち元來種の少ない上に尙それが損はれるといふことでありますれば、全體の數として、甚だ寥々たるものしか世に出ないことになる譯でありまして、ゴルトンの計算した實數は、單に或時代だけの材料から統計的に得た結果に過ぎないのでありますけれども、斯くの如き統計的結果を生ましめましたものは、即ち

當然その教育法の不備なるが爲めでありませうと思はれます。

今まで吾々の述べましたやうに一定の方針による教育法を施しましたならば、其の結果は拔群者、天才者流の者の數をして、百萬人に一人といふが如き貧弱なるものたらしめず、益々增加せしめて多士濟々たるに至らしめ得べきことは、決して不可能事ではないと思ふのであります。併し今直ぐに吾々に向つて、それならば其の兒童を如何にすれば宜いのか、又其の兒童は如何なる素質を有し、如何なる方法によつて教育すれば、必ず成功するものであるのかといふが如き、一々の具體的問題に就て、責任ある答辯を求めらるゝことは、之は甚だ迷惑千萬なことであります。大約の點に於いてはその具體的方法の判つて居ることも少なくはありませんけれども、總てのあり得べき場合を通じて、今日吾々がその實際を悉く知り盡して居るといふ譯ではありません。ただ吾々の切に望みますることは、今後は父兄幷に教員諸賢の間から、同好の人々互に力を協せて共にこの方面の實際問題の研究を進めて行き、今後生れて來る天才兒に對しまして、出來得る限り、其の人生の幸福の道を拓いてやるやうに、心がけてやりたいといふことに外ならないので、只今は單にその希望を述ぶるに止まるのは己むを得ない次第なのであります。

第十章　天才論

天才とは何ぞや　是よりは一般に天才者に關する從來の多くの學者の學說の變遷を、極く簡單に申し述べまして、天才者なるものの特質を、更に一層明かにして見たいと思ひます。併し御注意を願つて置きたいと存じまするこゝは、今迄の御話は凡て天才兒童の敎養の方法を主眼として述べたのでありますが、是より述べやうと思ひますることは、天才者として既に世に現はれました人々に於て、其等の人々に共通の特徵點に就いて考察して見やうとするのでありまして、兒童期の天才を研究する上に、必ず成人と同一の特徵が現はれて居るものとは斷言出來ませんが、併しながら少なくとも天才なるものをよく理解する上に於きましては、或は多少の御參考になる點もあることと信じます。

諸家の定義　天才とは如何なるものを指して云ふか、其の定義に就いても古來色

々の學說が述べられてあります。私共は前に述べました如く、唯何等かの智能の方面、或は技能の方面、或は其の他性格の上に於きまして、社會的に有意義な或る能力に於て、普通人と異つた平均能力以上の優秀なる點を示すものを指しまして、天才と廣く呼ぶことにして置きました。尤も之は要するに便宜上の言葉でありまして、從前から云ひ慣はした天才、即ち世に稀なる能力を示す所の天才者に就きまして、學者の觀方によつて、いろ〳〵其の定義の範圍を限定しやうといふ試みが、多くの學者から提言せられました。即ちその學說は大體之を三つの彙類に分けて考へることが出來ると思ひます。

第一はゴルトン、ツールーズ、メービウース等の如き、主として自然科學の方面から天才を研究した人々の說であります。之れ等の人々に從へば、天才者とは甚しく優秀なる精神的能力を示すものを悉く總稱するものとして居ります。即ち私が單に能力の一方面のみに於いて優秀なるものを天才者と呼ぶといふのに對しましては、是れ等

の人々は精神的作用全體としての優秀なる點のみを見やうとする點に於いて、異つて居るのでありますが、しかし大體の趣意に於いては、唯私共の立てました定義をば、尙ほ一層勝れたものにのみ其の範圍を制限せんとして居るに過ぎないものであります。

第二の類はフォーレル、ハーゲン、メンデルスゾーン、ボーナマイエル等の說でありまして、之等の人々は、主としてカントの述べた定義を祖述して居るものと認むべきものであります。即ち天才の特徵は、其の創造性と並に想像力即ち空想力の優秀なるものを指すといふ風に限られて居ります。從つて此の定義によりますれば、藝術、文藝、宗敎の如き方面の、世に稀なる天才者を包含するのみでありまして、創作性や空想性に乏しい所の一般の學者、殊に天文學者、物理學者、生物學者の如き、具體的事物を取扱ふ所の學者達は、如何に世に稀なる有名な碩儒と雖も、之を天才者の群に數へることは許されないことになるのであります。

第三類は唯精神作用上の一方面の特質のみを標準として、天才者の特徵を代表的に總括せしめやうとした試みでありまして、此の方面の定義の中には、隨分不備の點がないでもないのであります。例へばウオルフは天才者の特質は其の努力黽勉して倦まざる耐忍性の點にあると述べて居ります。しかし之は私の述べました性格上の優秀の一點のみで、凡ての天才を律しやうといふやうなもので、無論天才者中の或る類にはさういふ特質の者もありますが、總ての天才者が悉く努力黽勉倦まざるものとは云へません。殊に文藝家や藝術家方面の天才者に於ては、才に任せて隨分平生は怠け者も多いやうに聞き及んで居ります。ウオルフの定義は、餘りに一方面のみに限られ過ぎて居るやうに思はれます。

ショーペンハウエルは、最も完全なる客觀性を以つて天才の特質だと謂ふて居ります。即ち何等の私意を挾まず、事物を有の儘に觀察することに於いて、最も完全なる能力を示すものが、即ち天才だと述べて居りますが、之に從ひますれば、哲學者を初

めとし、各方面の優れた科學者などは、總て含まれるわけでありますが、カントの擧げたやうな空想家や藝術家は一切含まれないことになります。

チユルクは此のショーペンハウエルの定義を更に敷衍しまして、天才者とは完全に自我性を沒却し、事物に對する眞の智的愛を有するものをいふと述べて居ります。換言しますれば最も公平無私に事物の本態を觀察し、事物に對する完全なる理解を得ることを喜ぶ性格を、天才者の特質と觀て居るのであります。

天才と能才　以上の三つの部類を設けまして、從前の天才者の定義を大體區分することが出來ますが、併し、其の說の何れも評論家の自分の立場を代表して述べられた如きものでありまして、其のどれか一を以て完全なる天才の定義としますることは、未だ全體としては當らぬやうに思ひます。殊に以前ライブマイルの如き學者は、能才と天才とを質的に區別しまして、能才とは主として客觀的方面の事物を能く觀察し、尙努力黽勉によつて自己の經驗を豐富にして行く力を有するものを云ひ、天才とはカントの定義しました如く創作性並に空想性に富んだ者であつて、主として觀察に基き、それを自己の考慮により、その觀念に種々なる改造を試みまして、發明清新なる新思想を其處に生み出すものを云ふと致しました。

而してこの能才と天才とを兼ねた者もあると云ひ、例へば學者であつて多くの投群なる發明を致しました者の如きは、能才ある天才であります。又單に藝術界に於ける如き、專ら創作性を尊びまして、其の經驗的知識を豐富にしやうとするが如き努力を示さない天才を、能才なき天才と呼んでゐます。又一般普通の學者が學術的研究に從つて居るが如くに、何等の創作性なく、徒らに古人の糟粕を嘗めつゝあるもの、或は專ら觀察のみを事として居つて、自己の統括せる新なる科學的思想の表現を爲さゞるが如きものは、天才なき能才と呼んで居ります。

斯く天才と能才との二つの文字を使ひ分けて、種々是等天才者の特質を分類して居りますが、是亦餘りに人工的に過ぎた嫌ひのある定義でありまして、如何にも態とら

しいやうに思はれないでもありません。

從來の定義の總括　而して、只今是等の從來下された諸定義を爰に一括しまして論評して見ますると、世間で天才と呼ぶ所のものは、主として創作的、空想的の思想統合力の優秀なることに名づけてゐるやうですし、又能才とは外界の觀察による經驗並に印象をば、能く自己の思想に同化し、然も同化せる思想を再び系統的に再現する能力に長じたるものをいふのであると解せられるのであります。

斯く觀じ來りますれば、科學者としましては主として能才的方面の能力に勝れてゐることを必要とし、藝術家としては空想的統合力を豐かに備へて居ることを要するのであります。假に私が述べましたことを元として申しますれば、智能の方面即ち記憶、聯想並に空想の方面に於て優秀なる能力を示すものは、所謂天才的色彩を示すものでありますし、之れに對し推理幷に統覺の方面に於て優秀の能力を示しますものは、所謂能才的色彩を示すものと謂へるのでありませう。併しながら何れも共に智能といふ

大きな作能の上から申しますれば、智能優秀なる點に於ては、共通のものでありまして、私共が述べた如く、智能の或方面に於て優秀なるものを總て天才と呼ぶと致しますれば、所謂天才も能才も、共に引き括るめて天才といふ稱呼の中に入るのであります。

私の此の定義は、偶然にもロンブローゾが其の天才を論じました書物中に引用した多くの實例を、總て其の儘包含することになるのであります。ロンブローゾは其の有名なる天才論中に於きまして、天才の實例としましては、漫然と詩人でも、文士でも、學者でも、藝術家でも、政治家でも、宗教家でも、實業家でも、何事によらず一方に勝れた仕事をした人を、皆天才として認めて居つたものらしいのでありますが、ロンブローゾはその書中には、確實な天才の定義を擧げて居りません。併し其の論じたる所の趣旨によつて察して見ましても、ロンブローゾは最も廣い意味に於て天才を考へて居つたらしく思はれるのであります。

パスカルは前にも引用しました如く、天才を稀有のものと做しまして、例へばゲーテの如き人物は、百人の凡人を寄せてもゲーテ一人の爲した業蹟を成し遂げることは絶對に出來ないが、ニウトンのやつた業蹟の如きは、一千人の凡庸なる學者と、百年の年月とを與へさへすれば、必ずや其の爲しただけの學術的功績に到達し得べきもので、即ちニウトンの眞似は凡人が大勢寄れば出來たであらうが、ゲーテの如き眞の天才者は實に崇拜すべく驚嘆すべきものであつて、決してそれは學んで到達し得べきものではないと述べて、天才讃美をして居ります。

天才の發現に必要なる他の要素　併しながら一歩進めて考へますれば、ゲーテと雖も生れながらにして、自づから其の稀世の天才を示したわけのものではありません。幼より藝術を學び文學を學び、其の學びたる事柄に於ては、人一倍の努力と人一倍の興味とを持續して、始めて其のゲーテの詩才を爲し遂げ得たのでありまして、即ち其の天賦と勉強と相俟つて、ゲーテたるを得だのでありませう。天賦なくんば世に顯はれた天才たるを得ますまいが、又勉強なくんばその勝れた天才を發揮するに由がなかつたでありませう。

ナポレオンの如き天才者と雖も、時世時節に際會して軍學を修め、其の軍學を應用する地位になり得たればこそ、オポレオンとしての功績を成し得たのであります。たとへば現代泰平の日本に於いて、ナポレオンよりも優れたる軍略上の天才を有する多くの參謀官があるかも知れませんが、唯時運を得ずしてナポレオンの如き事業を爲しナポレオンの如き名聲を馳するに至らないものが、幾多潜んだる軍學者の中にあることであらうと私は想像してゐます。即ち天才が世に現はれる迄には、其の天賦の優秀も必要であり、又人一倍の勉強も必要でありませうが、一面には亦時運に乘じ機會を捉へるといふことも必要なことでありまして、多くの偶然的要素と必要的要素とが相俟つて、始めて天才者として世に現はれるやうに致すのでありますから、唯單に天賦の力を尊び、又は單に其の努力のみを貴ぶといふだけでは、天才を作り上げる上に當ら

ないでありませう。勿論其の何れを缺くも亦天才たり得るの道ではありません。故に何れか一方を尊び他の一方を斥けることも、當を得て居ないのであります。

何れにしましても、天才者としての特徴は、其の才能を發揮するに足るだけの多くの材料を、興味と努力とによつて蒐集しまして、然も蒐集せるものは單に受働的に自分の觀念界中に蓄へておくだけに止めず、それを思想によつて種々に改造し再現せしめて、世に益さなければなりません。故に唯事物を蒐集して貯はへておくといふのみに止まれば、以て天才と呼ぶには足らないし、又單に技能を學び古人の糟粕を嘗め、習ひ得た技能其の儘を復現するといふだけでも、天才と呼ぶことは出來ません。之は前に例に擧げました眞の藝術家とペンキ職工との相違に於ても見得ることでありませう。

科學上の天才　科學の研究に從事するものとしましても、眞に科學的にその學術を研鑽し、その體系を大成して、自己の思想を完全なる系統的の學說として發表しまするものは、科學的天才といへませうが、唯單に多くの科學的事實を蒐集するだけで、例へば研究室裡に於いて試驗管や顯微鏡を終日の友として、其の學術的事實の所見のみを逐ふて書き集めることに汲々としてゐるものは、謂はば科學の職人に過ぎないものでありまして、ペンキ職工と同樣に、天才的の色合を有つて居るものとは稱し難いと思ひます。併し斯くの如き科學の職人の中から、天賦と努力とによつて、遂には眞の天才的科學者を生み出すのでありまして、科學の職人であり科學の門番であると云つて、一概に研究家、學究家を貶す譯には行きません。誰しも當初からいきなり大科學者となるものはないのであります。しかし總ては天賦と努力と時運との三つによつて最後の解決をせらるべきものであります。

世の中には發明の天才と呼ばれるものがありまして、色々の器具や或は種々の日用的の簡便の方法などを、發明することを以て樂みとして居り、此の方面に特別の能力を示す人が少なくないやうであります。併し其の發明に從事する人の眼界が狹くて、

ただ日用の臺所道具に類する程度の發明斗りしてゐるのに止まりますれば、それは天才の極めて規模の小なるものと申さねばなりません。斯かる人は更に眼界を廣くし、自己の能力を尙多くの方面に發揮するやうに努力致しませんければ、一生その程度に止まりませう。又發明の天才と雖も、唯一度氣の利いたものを發明したといふだけで、それに續いて何も發明しませんでは、初めの發明は偶然の力による偶然の賜であるかも知れませぬ。思想と努力との力によつて、同一の能力傾向を永續的に不斷に示すことを以て、やはり天才の要素と見なければならぬのであります。

天才と思想的特徴　斯く論じ來りますれば、天才者の最も貴びまする所は、要するに豐富なる想像力により、多くの思想上の改造又は創作を爲し、又己れの觀察し記憶せる事物に對して、思想的に同化し、之を巧みに再現するを試みまするのが重要で、それ等の概念の間に共通せる一貫した原理を歸納するに當りましては、主として聯想と記憶との內容を豐富にし、自己の精神的思想的活動を、最も自由奔放にすることを平素努めて心掛けなければなりません。

之を簡單に云ひますれば、空想を豐かにすることを、學ばなければならないのであります。思想の動く範圍の狹隘なものは、前に例に引きました發明家が、單に臺所道具の工夫斗りに沒頭するのと同樣で、決して蓋世の天才的事業を爲すに足らないと申さねばなりません。

然るに現代の敎育敎授法なるものによりますれば、科學的にといふ理想から導かれまして、主として事物の客觀性を尊びまして、其の觀察中に主觀的分子を混ずることを寧ろ遠ざけるが如き氣味があるやうであります。何事を致しまするにも先例に從ひ、舊慣に泥みまして、自己の創作性によつて新たなる工夫を爲すことを忌みますし、尙記述に當りましても專ら精密にして、正確なる觀察を尊ぶといふことは、一面に於て能才を養成する上には、重要な素質を養ふ所以でありませうけれども、他面に於て其の思想思考の自由なる働きを妨げまして、所謂空想を豐かにする道を塞ぐものではな

いかと思はれます。時代の思潮が斯くの如き一方のみに偏りますれば、所謂天才の發現を閉塞するものと云はなければなりません。

天才發現と時代　從前の歷史に顧みましても、天才者は最も自由な思想の發表を許された時代ですとか、又は戰雲漲り人心混沌たる時代などに於きまして、言ひ換へますれば思想の因襲的の束縛を受けなかつた時代に於きまして、最も活潑に且多數に世に現はれて居るやうであります。前に例に擧げました「スパルタ」の全盛の時代の如き、一定の國是が既に鞏く定まつて、何等空想的主觀的思想の發表が許されてゐない時代に於きましては、天才者の進むべき道は閉塞して、現はれる道がなかつたのであります。

學校に於きましても、教員に自由な思想教育の理想がなく、細目に膠着してたゞ教科書に則り、教員自己の頑固なる先入見に則りまして、專ら偏狹に傾いた思想の注入を主として、嚴重な教育を課しますれば、總て粒の揃つた成績の統一した兒童の級が出來上るかも知れませんけれども、ズバ抜けた天才者の發現は、決して斯ういふ方法では望まれないと思ひます。天才的人物の輩出を望むに於いては、却つて現代の科學的教育法に依りまするよりも、舊來ありました寺子屋式、或は家塾式の教育法に依つた方が、寧ろ自由に天才者が生れ出る餘地があつたかのやうに思はれます。斯く云へばとて、吾々は今日の時代の教育思潮を斥けやうといふのでもありませんし、又現代の科學的教育法が惡いといつて、批難するのでもありませんが、此の現代の施設の上に更に百尺竿頭一歩を進めて、單に能才者を作り出さうといふ努力に止めずして、稀世の天才者をも養成するやうに、教師父兄が努力して行きましたならば、或は時代思潮に先んじて教育上一方の先驅を爲しましたならば、必ずや現代の教育の効果を超越する結果が現はれて來はしまいかと思ふだけに過ぎないのであります。

天才養成の場所　それで今日の時代に於きまして、私共の望む如き自由の天才教育を實際施しまする場所としましては、吾々は之を只今の學校に於て望むことは到底

出來ません。唯理解あり教養ある父兄の家庭に於てのみ、之を望むことが出來るのであると信じます。殊に學校教育は今日團體的、劃一的教育によるより外に方法はないのであります。之は教員の教授能力を經濟的ならしむる爲めに、又學校の設備を經濟的ならしむる爲めに、誠に多數の生徒を同時に教授することは、己むを得ない方法でありまして、個人々々の特質に應ずる特殊教育の如きことは、現在の普通教育に於ては到底その普及實施を望むべからざることであります。即ち個人の個性に應ずる特殊教育は、是非とも家庭に於ける父兄の理想とその努力とに俟たなければならないのであります。今たゞ客觀的知識だけを豐富に授け注入することは、之を學校に於いて望むべきことでありませうが、天才的發動或は性格の構成の如き方面は、今日總て之を家庭教育といふ方面に望むより外はないと存じます。吾々が天才教育の趣意を學校教育よりも、寧ろ家庭教育に於いて皷吹しやうと欲しまするのは、此の所以に外ならぬのであります。

天才は自然兒　要するに天才者なるものは、一種の自然界の天産物であります。其の生來優秀なる天賦の素質に基きまして、それに偉大なる勉努力が加はり、始めて養成せられ完成せらるべきものでありますが故に、最初から著しい天賦のないものを天才に養成することは、まづ不可能と申さねばなりません。則ち天才は自然兒であり、天から時代に向つての賜であります。從つてそれが何處の國に現はれるか、何れの時代に發現するかといふことは、豫め之を測ることは出來ません。

併しながら其の天の賜を懷いて此の世に生れて來た人間を、教育し庇護して完全なる天才者に仕立て上げることは、之れはその邦土の民衆の天才を尊崇する心掛と、その時代の思潮が天才に自信を與へることが、非常に重大なる役目を爲してゐるのでありまして、斯くて時代が天才を生み國が天才を生むと云はるゝのは、云ふまでもなく天才者の自由なる發展を許す時代、又は天才者の奔放なる思想の活動を許す國柄にして、始めて天才が世に現はれることを意味するのでありまして、天才の卵は恐らく

到る處到る時代に於て、現はれ得ることとは思ひますが、不幸にして其の天才者の活動の自由が許されない場合に於きまして、其の天才者は世に現はれ出でる機會がなくその道がないのであります。從つて國家を擧げ國民を擧げて藝術を尊重し、又其の藝術を觀賞すべき常識が普及する場合に於きましては、藝術方面の天才は陸續として世に現はれて來まして、藝術界の大隆盛を來すのであります。如何となれば此の國の藝術界に於いては、各人の自由な思想の發表が許されて少しも壓迫がなく、且つ民衆が之を推奬するからであります。又政治界が混沌として自分の能力のまゝに政治的手腕を揮ふことが出來る時代でありますれば、政治的の天才は又多數世に輩出し來るでありませう。茲に於いて國家の政策なるものが、天才の輩出に重要な關係のあることも亦否定することは出來ないのであります。

天才崇拜の必要　要するに天才を澤山作らうといふ國家的政策は、其の天才の現はしたる事業を擁護し、廣く國民に向つては、天才を崇拜するの道を敎へるにあるので、天才を崇拜せざるものにして自ら天才となり得たものはありません。英雄を崇拜せざるものにして、英雄たり得たものはありません。

現代の人の多くは輕薄な思想にかぶれまして、餘りに人物や事物を莫迦に輕視し過ぎる傾向を持つてをりはせぬかと思はれます。多くは人の智能を萬人平均的に見まして、男でも女でも、全く智能の素質が同一であるが如く唱へて、男女の機會平等を論じましたり、或は萬人が萬人皆同權同能力であるから、思想に於ても、財産に於ても、權利に於ても、地位に於ても、萬人平等なることを以て理想とするといふやうな意味のことを、廣く述べて宣傳して居ります。しかし斯かる平等主義の行はれる時代と國とに於きましては、恐らく天才の輩出する途はなからうと思ひます。

昔の一學一藝の師弟間の關係を見まするに、師は最高の位置に在り、弟子は師を見ること天日の如く、七尺去つて師の影を踏まざることは勿論、師の一言一行は總て後進者の言動の模範となつて尊崇せられました。斯くの如き師弟の間に在りまして、始

めて其の弟子は、師の風格を望んで、自己の潜んだ天才をその中に發見することを得るのであり、又そこに新たなる努力と希望とを生むことが出來たのであります。

現在に於きましては、一般の學校の師弟の間の關係は、恰も商人とお客との關係に似たものでありまして、弟子は師を人格的に尊敬することなく、師も亦親切を以て弟子の身の上を思ひやることもなく、唯一定の時間割表に從つて、自己の知つてゐる所の知識技術等を形式的に講述して、之を生徒に傳へまして、それを以て教育の事是れ終れりと考へて居るやうでありますが、斯くの如くなれば、師に對する弟子の崇拜の念は衰へて行くのが當然で、弟子が師の風格を望んで、其の言動を一々模範とするといふが如きことはなくなり、從つて師も亦自分が一世の師表となるといふ如き高潔なる氣慨に乏しくなり、總てが平凡にして努力なき教育の風潮を生じて來るのは、當然と申さねばなりません。

從來の天才者の傳記を見ましても明かに認められますが如く、古來或技能に於いて

優秀の才能を示しましたものは、其の觀察眼を飽くまでも鋭く致しまして、自分の師匠の有つてゐる特徴や秘術を、敏捷に體得するといふことに、熱烈な欲求を見せて居たのであります。湯加減を盗むといふやうな言葉には誤弊があるかも知れませぬけれども、要するにそれ程の熱心と綿密さとを以て、師の風格を慕ふ心があつてこそ、そこに始めて眞の天才的能力の發揮が出來、又其の基礎が構成されるのでありませう。

天才に擁護の要あること

天才は由來自發的に努力し、自ら大成するものであります。即ち天賦の興味に基き自己の興を感じまする方向には、殆ど他人から鞭韃せられなくとも、自から進んで努力し勉勉するのであります。故に天才者を無理からあらぬ方向に誘導しやうとしましても、それは駄目なことで、天才者は自ら自分の爲したいことを熱心にやるものであります。併しながら天才でも自から爲し得る所の範圍は、つまり其の軌道を見出すだけのことであります。其の軌條の上を走らせまするには、天才の自發的努力によるよりも、それを引き立て又は後押しする所の教育者がありま

すれば、尙一層其の進歩は迅速であるべき筈であります。殊に其の軌條を敷設し延長すべき開拓の地歩が與へられて居る場合に於きましては、尙更進んで止まざる天才的努力が、その效果を一層大にする譯でありますす。然るに一方に於て天才の進むべき途を阻み、一方に於ては劃一的敎育によつて、其の天才的軌條の上に進む途を出來るだけ廣くし、且遲くしやうとするが如き方針を執りまするならば、狹い路を行かうとする天才者は自滅するを免れますまい。

天才と主觀性　天才者が自分の職業なり、或は自分の事業なりに從事してゐる時の心持を問うて見ますれば、多くの場合は、單にそれが自分に面白いから其の事に熱中してゐるといふのみでありまして、遠大なる理想や或は利害觀念等は、之を自覺的には認められないものが多いのであります。即ち天才者自身から云ひますれば、自分の執つて居る職業の高下は論外である。雄大なる藝術的作品を爲す人でも、或はコセ〳〵した職人的の技工に沒頭する人でも、共に天才肌を有つて居る人の心持は、全く同一でありまして、其の事柄が卑しいとか、或は其の事柄が高尙であるといふが如きことは、全く不關焉の論外であります。

斯かる世外に超然たる心持があつてこそ、始めて不遇なる境遇にも滿足が出來るであらうし、又餘り實用的ならざる藝術的方面にも、尙且安んじて自己の生活的地位を見出すことが出來る譯でありませう。生活上の不滿を抱けば、節を屈して世間的の努力をしなければならぬし、世間的の努力をすれば、自分の天才的興味を或程度犧牲にしなければなりません。幾多の天才が斯かるヂレンマに立ち、己むなき事情のためにその才を失はれて行つた例も、少なからずあつたらうと思はれます。

天才と其の家計境遇　從つて一方に於いて、天才は多少ならずその生計上の境遇の影響を受くるものでありまして、自分の興味を有つて居る事柄を自由に追究することが許さるゝやうな家計、或はそれが許さるゝやうな時代に、幸ひにして生れますれば、何等の障碍なく天才は發揮せられるのでありますけれども、境遇が許さず、時代

が其の事業を認めない如き場合に於いては、天才は甚だ不遇の生活を嘗めなければならないのであります。

世人の生活程度が一般に高くなり、各人の生計が概して逼迫して來た今日の時代に於きましては、出發點よりして餘りに生計の豊かでない人々は、天才を發揮すべき機會に乏しいわけであります。富豪に生れて或程度までは家計の豊かさを有つて居るものが、却つて容易に天才となり得るものであります。併しながら天才は前に述べた神經質とは異りまして、倦むことを知らないものでありますから、一時其の境遇は不遇に沈みましても、將來伸びる時を待ち、又實際伸びる時に會しまして後に、始めて天才の本質を發揮するやうな、實例も少なくないのであります。唯一言にして云ひますれば、天才は生活上の顧慮を要しないやうな幸福な境遇でなければ、容易には生れて來ないものであります。而して又一面に父兄なり教師なりが、其の天才の存在を認めまして、その力の發揮を奬勵し、或は少なくとも、其の天才の發育を壓迫するやうなことを差し控えることに努めませんければ、その天才は天才の域まで伸びて行くことが出來ません。だから天才は寧ろ己れを解しない父兄からは見限られて棄てられて後に、始めて發揮せられるに至つたといふ例も、乏しくないのであります。

學校から放逐せられ、教師から見棄てられ後に、始めて天才を發揮したやうな例が實際少なくないので、即ちそれ等は境遇の壓迫を免れて後に、自由なる發達を得たものと謂はねばなりません。少くとも其の家の家計は豊かでなくとも、父兄や教師に理解があつて、及ぶ限りその天才の庇護に努めてやりましたならば、物質的に天才者を養成することは出來ないにしても、精神的に天才者を保護することに於いて、其の教育的の効果は決して少なくはなからうと思ひます。

現代と天才發現　殊に社會が一定の秩序を保ち、國家の政策が一定して、突變の有り得ない今日の秩序的の時代に於きましては、著しき思想上の天才は現はれますまい。孔子の如き、釋迦の如き、マホメットの如き宗教的天才、或はナポレオンの如き

ワシントンの如き軍事的天才などは、今日の秩序ある社會に於ては相容れられざる所の繼子であります。

斯くの如き彗星的の天才が、今日の秩序ある社會に於いて養成せられやうとは思ひ及ばないことであります。宗教的天才、軍略的天才の如きは、平時に於ては到底現はれないもので、之は云ふまでもなく時代の壓迫に因つて生れるものであります。社會の秩序が立てば立つ程、其の社會の内部に於ては、人物の智能なり能力なり或は技能なりが、平均的になつて行く傾向のあるものでありまして、國民の平均的常識的智能は高まつて行くかも知れませんけれども、天才者の輩出に於いては甚だ不都合な狀況になると云はねばなりません。

今日の學校制度に於いても亦此の傾向が見られるのでありまして、秩序整つた學校内に於ては、到底天才者は養成せられないのであります。つまり之は平均點といふ秩序の壓迫に因るからであります。いつでも天才者の輩出については、常に時代の影響といふことを考へなければなりません。

天才と機會　以上單に天才者の素質と其の擁護とに關しまして、專ら努めて得らるべき方面のことに就いて述べたのでありますが、此の外に尚偶然なる機會即ち境遇と時代とのチャンスを無視しましても、亦天才者の發現を論ずることは出來ません。併しながら之は人力の如何ともすべからざる所の因子でありまして、教育的努力として之を論ずる譯には行かないのでありますが、尚時代と境遇等に就いて深く洞察しますれば、世に現はれた天才者は實に得難い好運者であると評さなければならないのであります。

天才は病的なりや　是に由つて之を觀ますれば、天才はロンブローゾの云ふ如く凡て之を病的のものとして一言に評し去る譯には行きません。ロンブローゾは天才者は狂人と共通の症狀を有することが多いといふ事實を論據としまして、天才は亦精神病の一種であるといふ意味のことを述べて居りますが、既に評論しました如く、天才も

不良兒も、精神病も、共に變質より生ずることは事實でありますが、天才と狂氣とは全く其の發現の方向を異にして居るものであります。變質なるものは病的現象ではありますが、決して疾病ではありません。從つて天才者を以て病人と見做し、其の治療を圖るといふことも出來ませんし、又一方に天才の一定の病源を研究して、人爲的の天才者を作り出すといふことも出來ません。

傳染病の如きものならば、病源の接觸或は感染によつて、病者を人爲的に作り出すことも可能でありますが、天才者は斯くの如き方法を以て作り出すことは出來ません。併し天才者は病氣ではないが、病的傾向を示すものでありますが故に、一面に於いて優秀なる智能技能を示すと共に、又他面に於ては、著しく智能技能方面の缺陷を示すことも亦少なくないのであります。ショーペンハウエルは、之を以て一方の技能の爲めに一方の智能が犧牲に供せられたものである、一方に小山を作らんが爲めには、一方に谷の生ずることは免れないといふ如くに解して居ります。

併し、人間の智能の總量は決して一定不變のものではありませんので、一方の要素に優秀ならんが爲めに、他の一方の要素作用を低劣ならしむる必要が何處にありませうか。人の天賦の相違する事實は、自から各人の智能の總量が不平均であるといふことを示して居ります。況してカントやゲーテの如き圓滿なる天才者の性格を見ますれば、人間の頭腦の力の總量なるものは、努力によつて殆ど無限の域にまで擴めて行くことが出來るものであるやうに思はれます。一方の智能に秀づる爲めに一方の智能を犧牲に供することなく、總ての方面に尙泰山の如き勝れたる能力を現はすことが出來ないとは云へないのであります。故に天才者が何かの精神的要素に於いて缺陷を併有しますることは、決して必然の產物ではなくして、やはり其の變質に基く素質的の傾向に過ぎないのでありませう。

缺陷あり或は神經病的症狀あることを以て、天才者の特徵であるかのやうに呼ぶことも出來ません。唯天才者にして往々斯くの如き者の存するといふ事實は之を認めな

ければなりませんが、一方の缺陷がなければ他に優秀を求むべからずとは云へないのであります。

然も其の缺陷は一面に於て變質による産物であるとは云ひながら、他面に於ては其の人の修養努力によつて、その缺陷を補ひ又は取り去ることも出來る筈なのであります。だから天才者の性格上の缺陷を、飽くまでも天才の特徴であるとすることは出來ません。たゞ吾々の眞の理想としましては、天才者自身もまた自家の努力によつて、自己の氣附いた性格なり神經機能なりに於ける缺陷症狀をば、出來るだけ治し除くことに努めて、一層更に圓滿なる性格に自己を作り上げ、其の圓滿なる性格の上に優秀なる智能技能を示すことを以て、眞の天才の理想とすべきであらうと思ひます。是れ天才者自身が大いに努めて行はなければならぬことであらうと思ひます。

天才は努力なり　今日世界に稀なる天才と傳へられて居る人々の性格を仰ぎ見まするに、皆その事業の上には大いなる倦まざる努力を示して居り、圓滿なる性格を備ふべく修養を怠らなかつた人々が、世の尊崇を多く得て居るといふ事實を見逃すわけに參りません。之に見ましても、天才なるものは決して病的の産物であり或は疾病の一種であると斷言することは、出來ないことを知るでありませう。變質現象なるものは、非常に廣汎なる意味を有してゐるものでありますから、變質の一方の現れは唯偶然なる現象と見るべきでありまして、決してそれは一定の法則により必然的に變質の條項の取合せが起るべきものであるとは、今直ちに確言することは出來ないのであります。從つて變質的症候の存在を以て、天才者の必然なる傾向と見做すことは出來ないと、吾々は信じて居るのであります。寧ろ變質的症候の現はれない天才者の實現をこそ理想とすべきであると信じてゐるものであります。

天才思想發現の心理作用　生來凡人でありましても、何か天才的思想を發揮しやうと發企しますれば、努めて得られないことはないのであります。思想發現の心理的法則を知得しますれば、それによつて優秀なる思想を産出することは、比較的誰にも出

來る容易いことのやうに思はれるのであります。凡そ新しい拔群の思想を出さうと欲するには、新しき思想の發現する法則を知らなければなりません。

新思想とは、所謂歸納的の論法によりまして出來るだけ多くの智的材料を蒐め、その中から、それを通じて新しい見地を作り出して、自家の思想を誘ひ出すことでありまして、決して嶄新奇拔なる思想が、天來的に忽然と湧き出して來るものではありません。それでその新しい思想は如何にして發現するかといひますのに、長い時期の間に亘りまして、常に其の一つの事柄を念頭に置いて、思念を斷たず、斷えず周密なる注意を以て思考を進めて行きますれば、潜在意識界に於いて段々その思想が練れて行きまして、斯くしてゐる間に、いつか其中に忽然として、或は又時には徐々として、新思想が釀成されて意識界に浮び出て來るものであります。「常に思へ」といふことが秘訣であります。

不斷の努力と準備となくして、自然と新思想が湧き出づるものではありません。常に其の觀察眼を鋭くし、其の思想を錬磨して居る間に、期せずして新思想が釀されるのであります。時には新らしい思想が、偶然なる外部の印象によつて、聯想的に喚起せらるゝこともあります。其の際に於きましては、最初は極く稀薄なる動搖した輪廓で現はれて來まして、未だ其の思想の根本たる基礎中核は自覺せられません。即ち漠たるインスピレーションの形で現はれて參りますが、それに就いてもう一歩想を錬り思ひを致しますれば、其の思想の基礎も明かになり、始めてそれが根據ある有力なる思想として完成をするものなのでありますが、そのもう一歩の努力を缺けば、再び消散して了ひます。

唯其の思想が始めて思ひ浮んで來る起因は、偶然なる外界の印象に基いて誘出されるものであります。だから新思想を感興的に得やうと志す人々は、常に多くの新しい思想なり事柄なりに努めて接觸して怠らず、又其の機會を掴むことに不斷の努力をしなければならないのであります。新思想は多くは精神的興奮を伴ひませんで、何等用

意のない時に、忽然として直接に現はれて來ることもないではない。即ち天から降つたやうに、或は地から湧いたやうに、豫感が現はれて來ることも屢々ありますが、唯その際湧いて來るといふのは、要するに一のヒントが感得せられるのに過ぎませんので、それを能く錬つて完全なる思想に磨き上げて行くのには、やはり其の後の辛苦の努力が必要なのであります。斯くの如くにして錬られた後でなければ、如何に天來的の勝れた思想と雖も、それを世人に傳へて、他人にその優秀なる思想を感じさせ、相共に共鳴せしむることは出來ないものであります。

科學的叙述と天才的叙述　科學者は總て事柄を眞實に認識し、その客觀的叙述を極めて明細に爲すことを以て理想として居ります。從つて例へば「お茶を一杯入れる」といふ普通俗人の言にしましても、科學者に云はしめれば、「茶葉の乾燥精製したもの約五瓦を取り、それに約百瓦の温度九十度以上に熱したる水を注入し、約一二分間放置して浸出又は煎出したる所の液體を以て飲料に供する」といふ風に叙述するのでありませう。極めて迂遠な言葉ではありませうが、ソツなく事物を述べることを心掛けてゐるのであります。之は全く今迄その方面に經驗も知識も有しない人に對して、明確にその事柄を傳へるに必要なことでありませうが、天才者は一般にそんな迂遠な道をとらず、多くは唯「茶を一杯入れる」といふ式に、簡單な言葉で、その思想を現はさうとして居ります。即ち各人の經驗知識は、己と同一又は近接の點にまで達して居るものと看做しまして、たゞそれより一歩進んだ己の新思想だけを叙述してゐて、その基礎となるべき經驗知識に就いては、多く叙述するの必要なきことを前提としてをります。之は思想の經濟的運用を圖る上に當然のことでありませう。今のは總て卑近の例を以て申し上げたのでありますが、天才的心理なるものは、何時も斯くの如く多くの論理上の間隙を有つてゐるものでありますから、即ち此の間隙を見出すことの出來るだけの知識經驗を既に有してゐる人にして、始めて天才者の心理を眞に體得することが出來るのでありまして、何人にも天才者の思想を解するといふことは出來ます

まい。

今の科學者の云ふが如き密密なる叙述を致しますれば、何人も正確に諒解するでありませうけれども、それだけの豫備知識のないものに對して、單に「お茶を入れろ」、「酒を一本つけろ」といふやうな式に命じましても、それは完全に諒解されますまい。例へば下戸の山出しの女中に向つて「お燗をつけろ」と一こと云ひましても、それだけでは、完全に命令者の意圖が理解されないことがあります。又その事柄は理解しましても、其事柄の過程を充分に知悉して居らないやうなことがありませう。從つて天才者の言動及びその思想は、屢々普通一般の人々に理解せられないやうな、又普通の人々から見ては常識を逸脱し過ぎて居るやうな、恰も狂人の言動の如くに思はれる如き場合がないでもないのであります。

孔子の言ですら世に容れられず、基督の言ですら當時の爲政家の怒りを買つたのであります。即ち天才の思想はその根抵が高いので、飽くまで常識を以て律することの

出來ないものであります故、その天才と同じやうな修養を積んだ人々であつて、始めてその天才者を理解することが出來るのであると申さなければなりません。

天才は常規を逸脱せず

併しながら天才の思想の精神的過程と雖も、快して常軌常道の心理作用を逸して居るわけではない。唯其の軌道の上を走ること餘りに早く、或は軌道の一部分を飛び越えることなどのありまする爲めに、常人の思考の理路を以てしては律し兼ねるといふだけのことでありまして、謂はば普通の人の通つて行つた經路を、極めて強力に極めて迅速に進んで行きますものが、即ち天才の思想なのであります。

即ち天才の思想は常道を飛行して行くのでありまして、一歩々々堅實に進んで行くものではなく、數歩を飛び百歩を飛行するものであります。此の點から云ひますれば、やはり天才は普通の小賢かしい智慧が、其の儘急激に大きくなつたものと見做すべきもので、詰り大きな智慧に過ぎないことになります。

故に天才の爲したことを理解しやうと努めますれば、常人と雖も其の理解の域に達することは、決して難くないのであります。併しながら理解する爲に努むる結果は、その天才以上に自ら一歩をも出づることは出來ないでありませうが、之れを以ても天才は決して常軌常道を以て律すべからざるものと、考へるのも當らない所であることが分ります。天才の特徴は、之れを要しまするに其の變質的の種々の神經病的或は異常性格的の症候に求むべきではありません。又天才の特徴を以て單に其の思想の內容や、行動の奇矯といふが如き、外見上のことに求むべきではありません。要するに天才の天才たる所は、斯る枝葉の點ではなくして、もつと深い强い、其の智能の流れの源泉に潛んで居りまする所の、基礎的天禀的能力の上に認めなければならないのであります。斯くの如くに解釋しますれば、天才者は快して偶然の產物とのみいふことは出來ません。普通人と雖も、やはり最初に吾々の述べました如く、種々なる特殊の敎養の方法によりまして、之を天才に作り上げることは、或程度までは可能であると思はれるのであります。

從前の天才研究　天才の研究に就きましても、從前多くの學者の論文が世に發表せられて居りまして、諸君も必ずや之に興味を有し、其の中の一二冊位は今迄に通讀せられたことであらうと信じます。併し從前の天才研究の多くは、唯單に天才の示した畸行奇言等を集めまして、興味本位にそれを羅列して見たり、或は天才者が到底俗人の及ぶべからざることを物語るやうな、種々の性格上の病的特徴を列擧しまして、天才者崇拜の爲めにしたり、或は天才者の家系や、或は天才者を發生した當時の時代や境遇等を詳しく叙述しまして、天才者は總て斯くの如く偶然なる特殊の環境の產物であるといふ結論に到達しましたり、或は其の他天才者は一種の狂人である、或は一種の精神異常者であると假定しまして、專ら其の變質的方面のみを力說して、天才者の價値を無下にしやうと試みましたやうなものなどでありまして、謂はば天才者に見られまする枝葉の現象を、詳しく叙述して居るのに過ぎないやうでありまして、其の

本質に亘つて深く論及し、天才者が如何なる點に於て常人と其の根本的素質を異にしてゐるか、又其の天才者は誰でも求めて到達し得べき境地にあるものであるか、到達し得べからざるものであるかなどに就いて、深い研究を遂げた叙述は、從前あまり存しなかつたのでありました。

從つて天才は及ぶべからざるもの、唯之が發生した場合には遠くから眺めて居るべきものであるといふやうに、解釋して居たやうでありますが、漸次天才者の多くの特質を精神病學的に探究して見まするとと、決して天才者は其の特質に於いて全く常軌を逸した特殊の產物ではありませんで、やはり普通の心理現象が、力濃く現はれたといふのに過ぎないことが判つたのであります。又其の力强く現はれた方面の特質が、分解的に明かとなつて來ましたにつれて、天才者を人爲的に養成することに關する理想も、朧氣ながら其の學說の根據を得て來たわけであります。

天才養成の機運　現に最近我國の社會的現象に就て見ましても、一度文藝が勃興して參りますれば、文運忽ち興り、文藝の士が多士濟々と諸方に輩出するのであります。世の中に硯友社一派の如き、叙述の巧妙を以て小說の眞體と爲す文士が出て、それを世間が喜ぶ時代に於きましては、其の方面の天才者は紅葉、露伴、鏡花、其の他擧げて限りなき程、幾多の天才者が簇がり出たのであります。

併し時代の傾向が移り行きまして、今日に於きましては、人生の事實の眞面目なる叙述、然もそれは科學的正確さを持つた叙述でなければ文學と考へられなくなつて來まして、所謂ゾラ、フローベールを先頭とした自然主義が現はれて來ましたのに對しては、從前の絢爛たる文章の美を競つた文藝家は忽ち閉塞して了ひまして、新たに時代の傾向を超うて立つた文藝の士が多く現はれて來ました。白鳥、藤村其の他列擧すれば限りもない。

而して、又最近に一度びネオローマンチシズム即ち新浪漫派の文藝家が現はれ來ましたに從つて、現代の文藝家として淨々の名を爲して居る幾多若手の小說家が出現し

て參りまして、其の中には又多くの天才者を認むることが出來るのであります。例へば鏡花子が文藝界の天才であると云ひましても、鏡花子を捉へて現代の新浪漫派の小說を草せしめて果して成功するか否かは保證出來ますまい。

要するにそれ等の文藝家が、それ〴〵の時代に適應して其の天才を發揮しましたのは、各自の能力の特質も勿論重きをなして居りませうけれども、その時代が主としてそれを導き出したのであります。現代に於きましても、亦絢爛たる文章を書く能文家が澤山あるに違ひないが、それは文藝として今日尊重されて居りません。此の時代にはそれ等の天才はやはり閉塞して居るより外はないのであります。

美術界に於きましても亦同樣でありまして、政府事業として帝國美術院の如きものが設立せられ、或は私設として日本美術院の如き、或は二科會の如き、幾多の奬勵機關が設けられ、各々派を立てゝ美術を奬勵し、又天才を誘導する時代に於きましては、夫々の派にありて夫々異つた色合を有する天才者が、翕然として世に現はれて參ります。

然るに一方には何等世間がそれを尊重せず、又政府がそれを保護せざる事業に於きましては、從前多數の天才がその道で輩出したにも拘はらず、今日其の方の天才者の輩出が全然杜絕して了つた方面があります。例へば極めて小さい例を擧げますれば、彼の根付の彫刻であるとか、或は刀の鍔の鑄工であるとかいふ如き技術は、德川時代に於きましては得難い天才を多數出したのでありますが、今日にありては一人と雖も、此方面の天才者を認むることは出來ません。之は時代が壓迫して天才の發現を阻止したが爲めであります。

又明治初年頃政界の混沌たる時期に於きましては、今日の元老を初めとし、多數の政治家が輩出し、又其の時代に於ては一藝一能に秀づる士が天下に多數輩出して、各々自分の好む所に從つて、各地に覇を唱へて居たのでありました。然るに現代は秩序漸次整ひ、學校教育が劃一的となつて來たにつれまして、斯くの如き一かどの優秀者

が、一向世に現はれて來ないのみならず、學校の一級中に於て稍々勝れた能力を有するものがありましても、何か他の能力や性行に於いて缺くる所がありますれば、其の者は學校では優秀者扱ひをされません。即ち劃一教育の主義によつて努めて平凡化せしめらるゝといふやうな傾向が見られるのであります。

斯くの如き教育の方針や、時代思想の趨向や、その他の種々の外部的影響によりまして、天才者の輩出が左右せらるゝ事實が明かに認めらるゝことに徴しますれば、決して天才なるものは、自からにして生ずるものとは云へないのであります。その天稟の素質は、自からにして生ずるものでありませうけれども、其の素質を擁り立てゝ、偉れたる天才者として世に現はれしむるには、明かに時代の影響が手傳つて居るのであります。換言すれば環境と教育の力とが之に與つて重きをなして居るのであります。從つて天才者を教育により作り出すといふことも、必ずしも一縷の希望のないことではない。恐らく一定の理想に從ひ秩序を立てゝ之を實行しまするに於いては、思ふ儘に天才者の輩出を期することが出來ないではなからうと、吾々は信じて居るのであります。

それには飽くまでも前述の如く、世に天才者を崇拜するの道を鼓吹しなければならないのでありまして、徒らに平等主義を叫び、人の能力が天賦的に平等であることを眞理であるかの如くに信じて、努力を奬めませんことは、全く心理學的或は精神病學的事實を解せざるものの言であると存じます。少くとも社會的政策としては、一面の論據として役立つかも知れませんけれど、平等は決して自然の現象には存しないのであります。天性に智能の優れたものもあれば、又劣つて居るものもある。天性に意思の强いものもあれば、又弱いものもある。自分で努め〳〵て高き地位に上り、又努甿倦まずして產を爲したといふものもある。又自から自己の性格の犧牲となつて貧民窮民となりて甘んじ、凡庸となつて世を終つても悔いないものもある。斯くの如く人の天賦には夫々差別があるものであります。勿論天稟の差別の存することは、社會組織

の上には新たに種々の不便を生じ、種々の不平を伴ふものではありますが、それが自然の現象であるとすれば、其の自然の現象を尊重し、その自然の現象を損はずして、社會的組織の間に一種の調和を求むべきことが、却つて眞の理想とすべき點ではなからうかと思ふのであります。

是等の社會政策は、吾々風情の議論すべき事柄ではありますまいけれども、要するに之等社會的環境の如何が、天才者の發現にとつて重大な關係のあることに考へ及びましたならば、是亦必ずしも無視すべき事柄ではないと信じて、一言致す次第であります。即ち現代に於いて、漸次衰へかける傾向の見られまする所の、英雄崇拜、天才崇拜の風潮を、玆に再び喚び起しまして、新たなる刺戟を、隱れたる天才の素質を有するものの上に加へ、社會は又それ等の人々に對しまして、充分なる保護と奬勵とを與へ、家庭及び敎師は之れ等の素質者に對して、目的に適ふやうな敎養法を授けまして、以て天才者をして、其の自由なる優秀なる智能技能を世に發揮せしむることに努めなければならないと考へるのであります。御淸讀を感謝いたします。

大正十三年三月十日印刷
大正十三年三月廿五日發行

定價金貳圓

著者　杉田直樹

東京市神田區美土代町二丁町一番地
發行者　中村德二郎

東京市芝區愛宕町三丁目五番地
印刷者　川城時造

著者檢印

發行所　東京神田美土代町二ノ一　白揚社
振替東京二五四〇〇

252.5
94

終